

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	Raptor attack	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.460	△RG	0.060	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：raptor attack

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

番

研磨剤

比較対照ボール：raptor

フレアーの幅 インチ

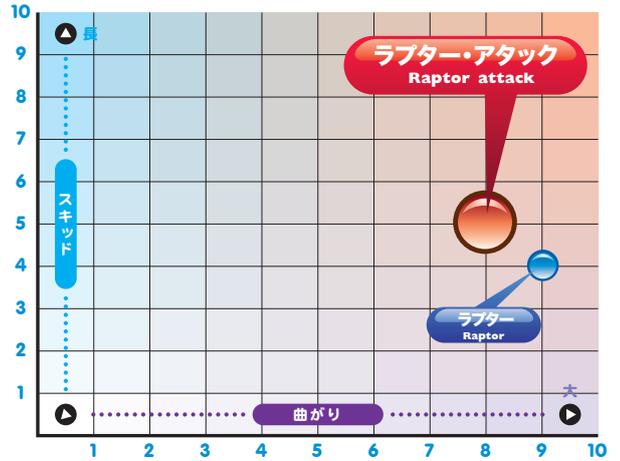
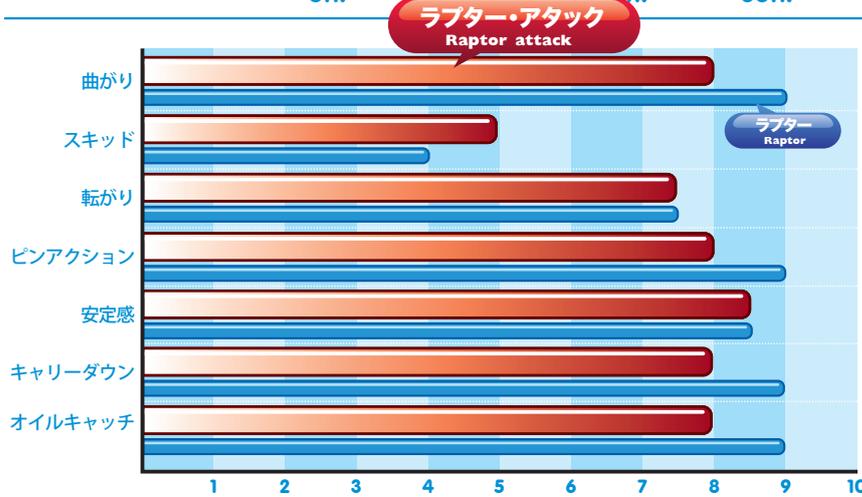
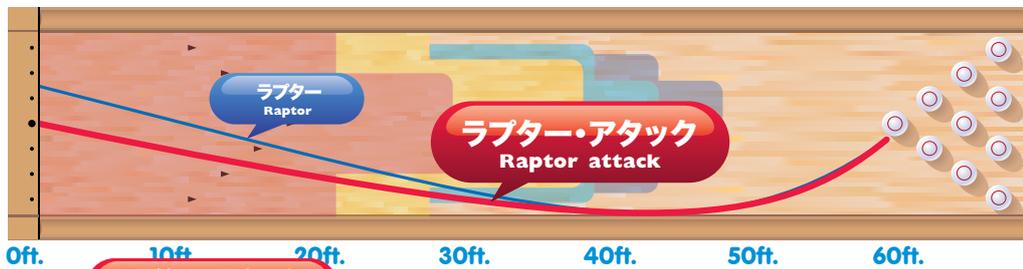
PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

番

研磨剤



ボールの評価

オイルに強いFormula-7 Reactiveとネジレ感の強いPredatorコア。前回のraptorは”強いカバーと強いコア”を組み合わせることで、ミッドエリアから安定感のある曲り始めとキャリーダウンに対しての強さを前面に打ち出した仕上がりでした。今回のRaptor attackは、先でフリップに反応する独特なカバー”Atomix SFP (Skid-Frip Pearl) Reactive”を纏わせ、ネジレ感の強いPredatorコアと組み合わせました。USBCリミット限界の△RG:0.060のPredatorコアが持つネジレ感はAtomix SFP Reactiveによりスキッドを得て、先でのフリップ状のリアクションへと変わりました。そのフリップ状の攻撃的なラインがネーミングにも反映され”attack”と名付けられています。

ミッドエリアからスムーズなリアクションのraptorなのか、フリップ状のリアクションのraptor attackなのかそれぞれの好みですが、日本のボウラーは全般的に先での動きが協調されている性能を好む傾向があり、このraptor attackのように”やや丸みのあるフリップ感”は動き幅が読みやすく、コントロールしやすい傾向がラインへのアプローチ随所で見られます。今回採用されたAtomix SFP Reactiveはパール系素材でもややキャッチ系Reactiveに属するのでしょうか、初代raptorのオイルを感じる限られたステージに使用するボールではなく、ミディアムヘビー以下からかなり広く使用できるでしょう。初代raptorの時と同じように、Predatorコアは非常にネジレ感の強い性能です。通常レイアウトよりもやや抑えたレイアウトでも十分にネジレを感じますので、ドリラーと相談してください。

現代はドライゾーンにあたる向きの変り激しいボールがほとんどですが、このattackのようにやや削れた内側を出し戻す本格的なボールは少ないです。このボールの良さを是非引き出してください。

特記事項

やや丸みのあるフリップ感は攻撃的な性能であっても動き幅が読みやすく、コントロールしやすい絶妙な仕上がり。ボールの回転方向にダイレクトに反応しますので、自分で動きをコントロールしたい方には特におススメです。